

# 青い波北陽台



## 夏に想う

校長 西田哲也

今年の梅雨入りは記録的な遅さでした。実家周辺の農家の方々  
は、水不足を心配しつつも、ため池の水を利用して何とか無事田  
植えを終えることができたようです。地震や台風、集中豪雨や異常気象など様々なことが起  
きますが、昭和五十七年七月二十三日の夜に発生した『長崎大水害』は今でも鮮明に覚えて  
います。当時大学四年生だった私は、二日後に予定されていた教員採用試験を受験するため  
実家に帰省していました。一週間後、延期された試験を受験するため長崎市を訪れました  
が、市内はまだまだ復旧の真っ最中で、浦上川に横たわる乗用車の周りを鯉が泳いでいる光  
景は今でも忘れられません。現在は観測や予報の精度がかなり高くなったとはいえ、様々な  
災害や事故に、いつ、何時遭遇するか分かりません。生徒達には「自分の身は自分で守る」  
という意識を強く持ってもらいたい、と改めて願う七月です。

一学期修了式の折、講話の中で「夏休みの宿題」を全校生徒に出しました。宿題の内容  
は、『自分の将来について、家族としっかり話し合う』こと。先日のPTA総会の折にも少し  
触れましたが、子ども達の将来設計は、三十年後、四十年後の保護者の皆様の生活に直接的  
に影響してきます。お互いの安心・幸せのためにも、ぜひ一度、お子様と真剣に話し合う機  
会を設定していただきたい。将来のことは予測困難で誰にも分かりません。今決めていたと  
しても、決してその通りになるとは限らないのが人生。しかし、今この段階で親子で話し合  
ったという事実と経験は、必ず将来役に立つ時が来ます。

写真のひまわりやハイビスカスは、ともに夏を代表する花として知られています。この大  
振りで色鮮やかな花に象徴されるように、夏は開放的で大胆かつ活動的なイメージが想像さ  
れやすい。一方、高校生の夏、特に進学校の夏は、これとは少し異なります。三年生はこれ  
から直面する大学入試に向け、着実かつ地道に実力養成を図る時期。一・二年生は、学習は  
もちろんのこと、文化祭・体育祭の準備と練習に加え、部活動では新人大会に向けた新チー  
ム作りに急ピッチで取り組む時期でもあります。

過酷な天候・気象条件の中にあっても、継続的かつ地道な努力を要求される、ある意味、  
試練の時、雌伏の期間ともいえるのが北陽台生の「夏」。

私は、北陽台高校の生徒全員がこの「夏」を制する健康な肉体と不屈の精神を身につける  
ことを期待しています。

# 令和元年度 オープンスクールⅠ

7月6日(土)に、本年度第1回目のオープンスクールを開催しました。

当日は、13時15分から吹奏楽部と合唱部による歓迎演奏で幕を開け、西田校長の挨拶の後、放送部作成のビデオによる学校紹介、学校概要の説明、理数科の説明等が体育館で実施されました。



その後、中学生の皆さんは、16の教室に分かれて高校の授業を体験しました。引き続き、本校の各中学校の出身者が高校生活と中学校生活の違い等を生徒目線で説明・アドバイスする交流会が実施されました。今回のオープンスクールには、昨年度を上回る、中学生432名、保護者198名の参加を得て大盛況になりました。

※参加していただいた中学生の皆さんの感想を一部紹介します。



- ・歓迎演奏がとても素敵でした。
- ・説明や体験授業を受けて理数科に興味が増えました。
- ・オープンスクールに来て、北陽台に入りたい気持ちが強くなりました。
- ・オープンスクールで他校にも行っていますがこんなに充実している学校は初めてでした。
- ・中学校との違いに驚いたけど、とても楽しかったです。
- ・先輩方から話が聞けて、北陽台のことがよく分かりました。
- ・楽しい授業でした。ぜひ入学してもっと授業を受けたいです。
- ・勉強だけでなく、部活動や行事にも力を入れていてすごいと思いました。
- ・交流会では先輩方に勉強に対するアドバイスをいただいたので、受験に向けて頑張ります。



## 第1回理数科講義

7月11日(木)に、長崎県立大学看護栄養学部の竹内昌平先生を講師としてお招きし、理数科1・2年生を対象に「数理モデルで捉える生命現象～ヒトの増え方や感染症の流行」と題した講義をしていただきました。



## 九州高校総体の結果

- ◇登山部男子・**優勝(5年連続)**  
ほぼ満点のスコア
- ◇登山部女子・**優勝(2年連続)**  
レベルの高さを披露
- ◇ラグビー部・**ベスト4**  
東福岡高校に惜敗

## 校内競技大会

7月8日(月)の午後と9日(火)に校内競技大会が実施されました。予想された雨も降らず、蒸し暑い中、熱戦が繰り広げられました。初参加の1年生も先輩たちに臆することなく奮闘しました。

### ※種目別優勝チーム

#### バスケット

男子 3年6組

女子 3年2組

#### バドミントン

男子 3年7組A

女子 2年6組B

#### サッカー

男子 1年6組

女子 3年2組

#### ドッジボール

女子 3年4組



## 1年生地域ボランティア

第1学年普通科の総合学習の一環として地域ボランティア活動を7月11日(木)に実施しました。長与町内の保育所や小学校、老人ホーム施設など14か所に分かれてボランティア活動に汗を流しました。



## 8月の主な行事予定

※ 8月20日～8月30日は授業日になっています。

7月30日(火)～31日(水)	夏季自学(1・2年)
7月28日(日)～3日(土)	3年自学合宿(雲仙)
8月1日(木)～2日(金)	1年理数科長大水産学部研修
5日(月)～7日(水)	3年夏季自学
7日(水)～8日(木)	2年理数科長崎大学研修Ⅱ
8日(木)～9日(金)	3年校外マーク模試
9日(金)	長崎原爆の日 平和学習 登校日
11日(日)～16日(金)	学校閉庁期間
18日(日)	3年オープン模試
19日(月)～20日(火)	中四国九州理数科研究発表大会
20日(火)	開始式 1・2年校内実力試験 3年授業
24日(土)	1・3年土曜自学 2年高校総合学力調査
31日(土)	GTEC検定(希望者)



## 学年主任より

### 1 学年主任 守 慶直 「4日間の合宿を今後の学校生活に繋げよう」

1年生は7月末に3泊4日の日程で自学合宿が行われます。4日間で約34時間の学習はこれまで経験したことがある人は多くはないと思いますが、この4日間をただ乗り切るのではなく、一つひとつのことに對して意識を高く持って取り組み、今後に繋げてほしいと思います。事前に計画を立てること、長時間集中して学習すること、集団の中で個人が取るべき行動など、この合宿だけで終わらせるにはもったいない、これからの高校生活やその先の人生で大切なことを身につけることができる期間です。たった4日間の過ごし方、そして今後に活かそうとする少しの意識の差が、合宿終了から大学受験までの約900日の間で非常に大きな差となって現れるのです。この合宿で何かきっかけをつかみ、8月以降の高校生活に大いに役立ててくれることを期待します。

### 2 学年主任 林 圭介 「何事かを成すには」

現代文で学習している中島敦の『山月記』に、「人生は何事をも成さぬにはあまりに長いが、何事かを成すにはあまりに短い」という、主人公李徴の言葉がでてきますね。これと同じようなことを勉強の面でもよく耳にします。本腰を入れて勉強をやり始めると、「これも覚えなきゃならん、あれも理解しとかないかん。」などと、やるべきことが次から次に見つかるということですよ。

何も勉強をしていない人はいませんが、課題などの全員に課されるものだけで終わってしまい、今の自分にどのような勉強が必要なのかということ、全然考えていない人はいるでしょう。このような人は、学習面において全く先を見通すことができていないと思います。

2年生では、学習合宿というものはありません。そして、8月に入ると学校に出てこない日が20日弱あります。ここで自主的な時間の使い方が大切となりますね。課題の他に、自分の弱点を振り返り、自分に必要な勉強を少しでもやってみましょう。弱点の補強には多くの時間がかかることが実感できると思います。今後の見通しを立てることができるように取り組んでいきましょう。

### 3 学年主任 下村 かおり 「夏本番」

前回の学年集会の折に、「6月マークでの第一志望校に合格した先輩達の共通点」として、次の6点について話がありました。①定期試験に手を抜かず頑張る人、②苦手科目の克服に早めに取り組んだ人、③課題の消化のみに終わらず、発展した学習をした人、④よく質問にくる人、⑤体育大会等の準備で疲れていても、しっかり学習に取り組んだ人、⑥学校開放を利用した人。いくつ当てはまっているでしょうか？これは、4年連続3年担任をされている中村先生から39回生への心からのエールだったと思います。季節は夏となり、これまでの学習をさらに発展させていく時期になりました。山口先生から「タイミングを逃すな」という言葉があったように、「今」「この時」というタイミングを逃すことなく、この夏は大きくジャンプアップしてほしいと思います。今月末には雲仙自学合宿も控えています。夏の過ごし方について綿密に計画を練り、実行に移していきましょう。